

春の訪れが感じられる今日の佳き日、ここに羽衣国際大学令和四年度卒業証書・学位授与式を挙行できますことは、本学にとって大きな慶びです。

ただいま現代社会学部 一六二名、人間生活学部 一一六名、合計二七八名の卒業生に、「学士」の学位を授与致しました。皆さん、ご卒業おめでとうございます。またこのたび卒業される皆さんを育て、支えてこられたご家族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、羽衣国際大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

三年前から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延は、ようやく出口が見えてまいりましたが、本日の卒業式は慎重を期し、ご来賓はお招きせず、卒業生の皆さんと少数のご家族の方々、そして大学教職員のみで、規模を縮小して本式を執り行うことと致しました。ここに改めてお詫び致しますとともに、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

本日卒業される皆さんは、パンデミックの第一波の只中で、二年次の新学期が始まった学年でした。一年以上、オンラインでの授業が続き、学外活動や海外研修など多くの行事が取りやめとなり、楽しい友人との語らいもままならない、それまでの大学生活とは大きく異なる日々が続きました。親元を離れて一人暮らしをしていた方々は大変な思いをされたことでしょう。大学としても、想定外の事態を乗り切るために、可能な限り支援しましたが、皆さんはこの困難な状況を本当によく頑張って乗り切り、今日の卒業の日を迎えられました。教職員一同敬意を表するともに、改めてお祝いを申し上げます。

さて、皆さんの多くは、毎日の大半を学びに充てることのできるまともな期間を終え、社会に出ることとなります。皆さんが手にする卒業証書には、皆さんの努力とともに、今日まで皆さんを有形無形に支えてくださったご家族や周りの方々のご支援と温かいお気持ちがつまっています。ぜひその方々への感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

皆さんの曾祖父の時代、日本は戦争に負け、大阪を含む日本中が焼け野原となりました。皆さんの祖父の時代、日本は高度経済成長を遂げ、世界第二位の経済大国となりました。皆さんのご両親が社会に出られた頃、バブルがはじけ、経済の停滞が始まりました。そして皆さんは学生時代に新型コロナウィルス感染症蔓延による国境封鎖を経験し、ロシアによるウクライナ侵攻は一年が過ぎてても停戦の兆しは見えませんが、十年以上も前に始まったシリアの内戦は出口が見えないなか、難民の方々の困難な生活に追い打ちをかけるように、先月トルコ南部とシリア北部を大きな地震が襲いました。エネルギーや食糧価格も高騰し、まさに日本のみならず世界が下を向いているかのような時代となりました。これから社会に出ようという皆さんにとっては、このように停滞からなかなか脱することのできない時期に卒業することは不運なことかもしれません。

しかし、人類数百万年の歴史の中で、どの時代をとっても、それぞれの時代の制約を受けなかった人々はいません。その制約の中で、先人たちは少しでも状況を良くしようとする努力を重ねてきました。百年前に羽衣学園を設立した島村育人先生もその一人でした。女子教育は不要であるとする時代に、「女性もまた豊かな教養と高度な専門知識を持った社会人とならなければならぬ」という信念のもとに学園を設立されました。それからちょうど百周年という記念すべき年に卒業される皆さんも、ここ羽衣での四年間に培った教養と専門知識、そして人間力をもって、偏見や臆断にとらわれない自由、つねに自主的に物事に取り組み、力強く未来を切り開いていく欲しいと思います。

今、社会には多くの課題が山積していると同時に、皆さんを必要としている方々がこの社会には大勢います。ぜひまずは周りの人々のために何ができるのか、を考えて、少しずつより良い社会を築いてほしいと思います。

石垣を築くには大きな石は必要ですが、その間を埋める小さな石がなければその石垣は崩れます。どんな組織においても、どんなプロジェクトにおいても、表舞台を務める人は必要ですが、それを支える人々のたゆまぬ真摯な働きがあってこそ組織やプロジェクトは前に進んでいくことができます。

皆さん一人一人の生活においても、すぐに成果が出ることだけに目を向けて、時間のかかる地道な努力や作業をおさなりにして、大きな成果も皆さんの目の前をすり抜けてしまうことでしょう。

明日から社会に出た際に、皆さんの心にぜひ常にとどめておいてほしい言葉を贈ります。それは「夢」の一字です。今日卒業式を迎えられた多くの皆さんは二〇代前半です。これからの数十年間、どのような未来であってほしいのか、ぜひ夢を描いてほしいと思います。「夢」というと何かぼんやりした、曖昧なイメージがあるかもしれませんが、周りの人たちの顔を思い浮かべ、世界の様々な問題に思いをはせ、できるだけ具体的な「夢」を描いてください。そしてその高みを目指して、目の前の一日一日をしっかりと歩んでください。

そしてもう一つ、今日の卒業式が皆さんの学びの最終日ではないということもぜひ心にとどめておいてください。社会に出て、これまでの環境では出会うことのなかった人々とも出会い、自分の持つ知識が不足していることをいやおうなく自覚させられる機会もあるでしょう。しかし、そこで決してうろたえたり、あきらめたりしないでください。私たち教職員も、この四年間、皆さんから多くを学びました。この四年間、しっかりと学び学士となられた皆さんには、新たに様々な学びを積み重ねるだけの確たる基盤がすでに備わっています。どうか本学の卒業生であることに自信をもって、しかし慢心することなく、謙虚に日々歩んでいくください。

私たち教職員にとって、皆さんの旅立ちには名残惜しい限りですが、同時に大変誇らしく思います。これからも皆さんのことをいつもでも見守っています。

皆さんが大きな夢を胸に、一步一步確実に、すばらしい人生を築いていかれることを祈念して、卒業式の式辞といたします。

令和五年三月二十一日

羽衣国際大学学長 中川 恵